

I 経営の重点に関すること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心もからだも元気な子	自分で考えてやってみようとする子	園児は、遊びや生活の中で、自分で考えたり、決めたりして過ごしている	・自分がやりたい遊びを選択し、友達と一緒に考えながら遊んでいる。子ども達の「やりたい」を実現出来るような環境を作ったことで、意欲的に遊ぶ姿が増えているが、発達や経験してほしい活動を押さえた教材提供が不十分な点があった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿、活動を通して意欲につながるような声掛けが出来ているのを感じる。そこから興味、関心へと広がっていくのではないかと思う 今年度は帰宅した子どもから、園で自分たちがやりたいことを保育者が用意してくれたら、環境を整えてくれたりした話を多く聞くことが出来た。子ども達は様々な経験をする事が出来たと感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分で考えられるような意図的な関わりや子どもが何だろうと興味を持てるような環境作りを行っていく 集団遊びなど保育者自身が遊びの幅を広げ、より子どもが楽しんで体を動かせるようにしていく
		園児は、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたり共感したりしながら遊ぶ経験を積み重ねている	・保育者が遊びや生活の中で楽しい思いを共有する機会を作った事で、相手の思いを聞き考える姿が見られた。話を最後まで聞けなかったり、自分の思いを言葉にできなかったりする子もいるので、話す、聞くを意識した環境を作っていく	B	B		
		園児は、体を巧みに動かす楽しさを感じながら思い切り体を動かして遊んでいる	・年齢に応じた体育遊びに意欲的に挑戦する子が増えてきている。友達をみて「じぶんもやってみよう」と真似をし自分で目標をもち、繰り返し行う姿がある	A	A		

II 各領域に関すること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園は、発達に沿った教育・保育の中で、発達段階に沿って応答性のあるふれあいや言葉かけを行っている	・個々の発達に合わせた言葉かけやふれあいの中で安心して自分を表現して過ごす姿がある。遊びの姿を見守ったり、言葉かけのタイミングを考え、教育・保育を行っている。コロナ禍で他学年とのつながりや情報共有が少なかった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有しながら、声掛けのバリエーションやタイミングを意識し関わっていく 今後も継続して伝達を確実にし、家族を含めた体調把握を行うと共に、生活習慣一つ一つがなぜやらなければならないか理由付けして習慣化させていく 保育者が遊びの発展につながるような子どものつがやきを見逃さず、興味からタイムラグのない環境構成をしていく 	
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	保育教諭は、こども一人ひとりの心身の健康状態を把握し、安心して園生活を送れるよう活動内容のバランスや調和を図っている	・子ども一人ひとりの朝の健康チェックや保護者への伝達を早番保育者からクラス担任へ欠かさず行われ、日中の保育も配慮して過ごすことが出来ている	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	保育教諭は、子どもと一緒に考え主体的に活動出来るように努めている	・子ども達が考えて行動できるよう見守ったり、考えさせるような声掛けの工夫をしたことで、自ら遊び出す姿が増えてきた。子どもと一緒に考え、それを遊びに発展させる事に課題が残る	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は定期的な安全点検や避難訓練等、危機管理意識をもち全職員が安全な対策がとれるよう努めている	・毎月の訓練が様々な想定で実施し、危機管理意識を持って行っている。子ども達も自分の身を守る方法、意識が身についてきている。また、ヒヤリハット記録を書いて問題の改善を図り、会議で共有し個々に意識を高めることができた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 予告なしの避難訓練で担任は避難方法を自身で判断し、的確な指示をだせるようになっている。クラス担任が不在時他職員の災害時の役割分担も明確にしている 支援が必要な子に対して、子ども達の中で関わりが出来ていて、さりげなく手伝ったり、教えてくれたりする姿が見られる 様々な勤務形態の職員がいて子どもが園の中で、研修体制を整えるのは環境面や設備面を考えると難しいと思うが、園内で工夫して実施出来ていると感じる 	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、健康に過ごすための基本的な生活習慣や食に関する意欲を育てよう努めている	・感染症予防の習慣が身につく、子ども達は進んで手洗いをしている。コロナ禍で黙食の声掛けを行い、習慣となってきた	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、統合保育について学び合い、一人一人の育ちに沿った適切な関わりを行っている	・研修や小グループの会等で子どもの姿を共有し、適切な関わりをすることが出来た。職員会議では、子どもの姿を報告し、共有している。一人ひとりの支援方法についての他職員との共有や理解をより深めたい	B	B		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	保育教諭は、責任を持って自身の役割に取り組み、各自の情報を共有している	・分掌や係の仕事は責任をもって正規、会計年度の職員共に取り組んでいる。しかし、一人ひとり、自身の役割に取り組んでいるが、情報が伝わるのが遅く、準備が滞る場面もあった	B	B		
6 研 修	(1)研修体制の充実	保育教諭は、園内研修を通して子どもの姿を語り合い、日々の実践や公開保育を振り返り、重点目標や研修テーマの実現に努めている	・園内研修に多くの職員が参加し、その後の研修やまとめの掲示等で振り返り共有が出来た。全職員が自分事として意見を持ち、積極的に意見を言えるような研修を今後も行っていく	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 親子遠足など、今まで出来なかった活動が出来るようになり喜びを感じる 職員が自分事として参加意識を持って、仕事を請け負い分担任して行っていく。また、他の学年との相談、調整をもう少し早めに細やかに実施していく 研修に参加していない職員にも研修について共有し、日々の保育の関わりや環境作りにつなげていけるようにする 	
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園は、子どもの興味、関心に合わせた教材を提供し「もっとやりたい」をかなえる環境作りを努めている	・子どもの遊びの続きが出来る環境を作り、遊びだしがスムーズになったり、子ども達自身で意見を出し合い必要な物を用意したりする姿があった。子どもの「やりたい」にすぐ応えられる環境作りが課題が残る	B	A		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、家庭とのつながりを大切に遊びや生活の様子を情報発信し、保護者と子どもの育ちを共有できる関係作りを努めている	・昨年度実施出来なかった個別面談、参加会、親子遠足を実施し連絡ボードや送迎時に子どもの育ちや良い場面を伝えることができた	A	A		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	園は、学校と連携を図り、様々な人や物との交流の場を大切にしている	・千代田小、千代田東小一年生との手紙の交流ができ、就学への期待が膨らんだ。近隣園の長沼こども園との交流では仲間意識が芽生えている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの感染対策も、今後制限が緩和が予測され小学校との交流も実施しやすくなる。以前は実施していた、図書室の利用や校庭使用など行っていきたい 今年度は散歩の機会が少なかったため、計画的に散歩に行き、繰り返し地域の方や場所に親しみを育てる機会を作っていく 	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、地域の方との触れ合いの場を作り、親しみを感じながら豊かな生活体験ができる機会を設けている	・園外保育に多く出掛けると、積極的に挨拶する子が増えてきた。囲碁教室、お話の会、勤労感謝訪問の実施はほぼ計画通り行うことができた	A	A		